

論文番号 16

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Alcohol consumption and risk of type 2 diabetes mellitus among US male physicians

アメリカ人男性医師集団におけるアルコール消費量とインスリン非依存性糖尿病との関連

執筆者

UA Ajani, CH Hennekens, A Spelsberg, et al.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Arch Intern Med 160: 1025-1030, 2000

キーワード

アルコール消費量 インスリン非依存性糖尿病 米国男性医師の健康状態調査

要旨

(背景と目的) アルコールとインスリン非依存性糖尿病との関連については、様々な異なった内容の報告がなされている。中等度のアルコール摂取によって、糖尿病が減少する、という報告がある一方で、関係ない、あるいは増加するという報告もある。そこで、米国男性医師の健康状態調査の 12.1 年にわたる追跡調査によって、少量～中等量のアルコール摂取とインスリン非依存性糖尿病との関連を調べることを目的とした。

(研究デザイン) 前向きコホート研究のデザインによる。

(対象と方法) アメリカ男性医師の健康状態調査の追跡対象者によって解析した。この調査の元々の目的は、少量のアスピリン内服およびベータカロチン摂取によって循環器疾患および癌の罹患が予防できるか否かを調べることであった。この調査開始時に自己申告によって調べた飲酒量と調査期間中に新たに発症した糖尿病との関係を調べた。

結果: 調査対象となった 20,951 名の男性医師を平均 12.1 年間追跡したところ、766 症例の新たな糖尿病発生が見られた。年齢、アスピリンまたはベータカロチンの無作為割付、ボディーマスインデックス (BMI) を調整し、アルコールを「ほとんど飲まない/全く飲まない」群を 1 とした場合の相対危険度 (および 95% 信頼区間) は、「月に 1～3 杯程度」で 1.03 (0.80～1.33)、「週に 1 杯程度」で 0.89 (0.70～1.14)、「週に 2～4 杯程度」で 0.74 (0.59～0.93)、「週に 5～6 杯程度」で 0.67 (0.51～0.89) 「1 日に 1 杯以上」で 0.57 (0.45～0.73) で、有意に減少する傾向が見られた ($P < 0.001$)。

(結論) 健康な男性で自らの決定によって軽度～中程度の飲酒をしている集団では、インスリン非依存性糖尿病罹患の減少が見られた。